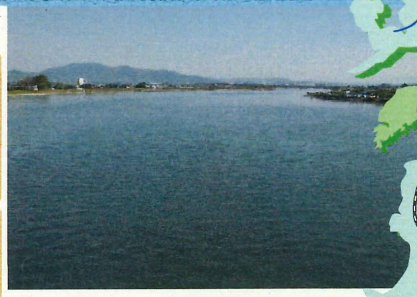
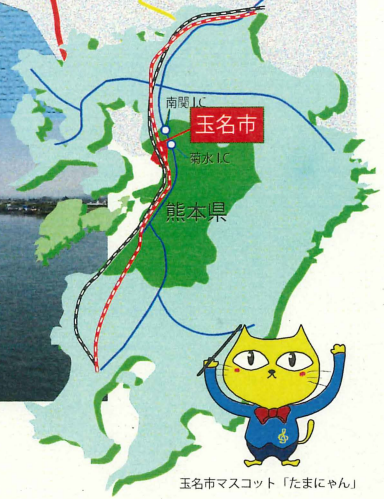
交通アクセス

- ●九州新幹線新玉名駅下車
  車で約１５分
- ●JR 玉名駅下車
  車で約１０分
- ●車で
  九州自動車道菊水 I.C. で降り
  県道 16 号経由で約２５分

〈問い合わせ先〉
〒865-8501
熊本県玉名市岩崎 163
玉名市教育委員会教育部文化課
TEL:0968-75-1136　FAX:0968-75-1138
玉名市 HP:http://.city.tamana.lg.jp/



菊池川河口



玉名市マスコット「たまにゃん」

菊池川流域日本遺産公式サイト
https://www.kikuchigawa.jp/

菊池川流域　日本遺産　検索

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産構成文化財・菊池川下流の船着場と港町

晒船着場跡（さらしふなつきばあと）

菊池川下流域全体図

■菊池川水運の玄関口、晒

菊池川左岸の最も下流部の河口付近に位置する晒は、流域外からは菊池川の玄関口として、流域中からは水運の終着点として重要な役目を果たした地点です。

寛永 16 年（1634）に川口番所が置かれ、のち晒番所として、鉄砲・槍などが配備されました。文化 5 年（1808）には、川床が浅くなり海辺の村々から高瀬御蔵まで遡るのが困難になっていたことから、晒に御米山床が設置されました。その後天保 5 年（1835）には高瀬御蔵の補助として機能させるために順次整備され、年貢米輸送のために平田船からより大型の廻船へ積み替える中継地点として重要な役割を果たすようになりました。

晒船着場が所在する地点は、菊池川とその支流の境川が合流するところでした。境川は、昭和の初め頃には流路が変更され、菊池川には合流せず、直接有明海に入る流路に整備されました。現在の菊池川の河川堤防は、昭和 44 ～ 50 年頃に整備されました。

安政 2 年（1855）作成の『菊池川全図』の晒周辺には、堤防沿に上流から津口改小屋、ハネ 1 基、俵ころがし、ハネ 2 基が記載され、堤防内には俵ころがしに隣接して「晒御米山床」、下流のハネ 2 基付近に「御番所」、「遠見」の施設が描かれいてます。現在の川岸は約 200m ほどが船着場として整備されており、このうち俵ころがし 1 基と、下流側のハネが 2 基残存しています。俵ころがしは、石畳が北側と南側に 2 基整備されています。

津口改小屋では、川の往来に必要な許可証である「川口出入札」を示す必要があり、坂下手永の惣庄屋から発給され、通行の管理が行われました。

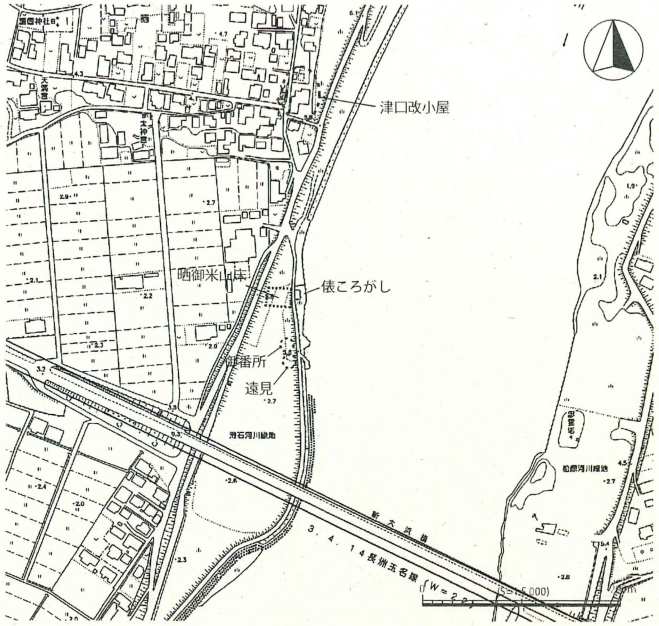
また、高瀬の下流約 1km、高瀬と晒の中間点にある大浜町は、古くからの港町として知られており、高瀬と同様に菊池川水運を利用した港町として栄えました。大坂への米運搬に従事する上荷船のほか、米以外の農産物（納屋物）を上方へ輸送する廻船が活動し、大坂屋や長崎屋などの船問屋が繁栄しました。

高瀬以外に、川沿いの大浜や晒も大きく発展し、また千田などに俵ころがしが設けられ、菊池川全体で高瀬を中核とした水運機能が整備されました。

晒船着場跡全景（南から）

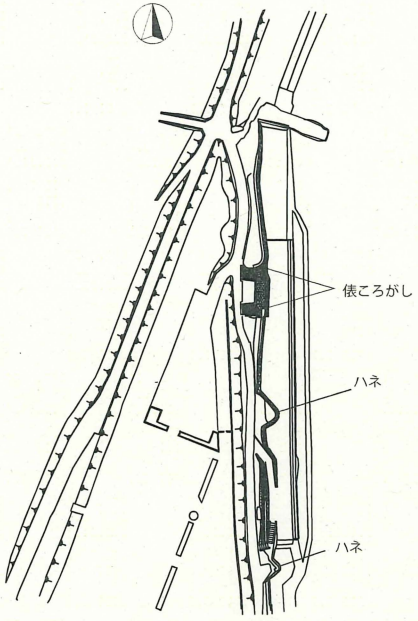
晒船着場跡の俵ころがし（南から）

南側の俵ころがし（西から）



「ハネ」とは…
刎（ハネ）、脇（ワク）などといい、堤防から川の中に突き出た石造の構造物で、護岸や川の流れを制御する機能を持つ。

晒船着場跡周辺図



晒船着場跡測量図

安政 2 年間（1857）作成『菊池川全図』の晒部分
熊本県立図書館所蔵。『玉名市史　資料篇 1 絵図・地図より転載・加筆